



人的な子育てサポート環境

酒井 厚

この章では、妊娠期から育児期にかけての夫婦が持つ人的な子育てサポートについて、その実態と子育て意識との関連からみていく。特に今回は、親による子どもの仲間関係形成の意識（ピア・マネージメント）に注目し、子どもが1歳時点での実態とともに、親の子育てサポートネットワークの変化がピア・マネージメントにどのようにかわるのかについて調べた結果も報告する。

● 子育ての相談相手

図6-1と図6-2は、妻と夫それぞれに、子どもが1歳児の頃に子育てに関して相談したり話し合ったことがある人とその相談の頻度を尋ねた結果をまとめたものである。

まず、図6-1に示した結果から、1歳児期妻が相談を「いつもしている」割合が高いのは、「配偶者」77.6%、「自分の親」31.1%、「自分の友人・知人」26.1%の順であり、前回報告した妊娠期と0歳児期の結果と同様であった（「第1回妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査（妊娠期～0歳児期）」Benesse次世代育成研究所、2009）。妊娠期からすべての調査に参加している322人を対象にして、妊娠期から0歳児期、1歳児期にかけての相談頻度の推移をみた結果、「配偶者」に相談を「いつもしている」人は妊娠期80.4%、0歳児期85.1%、1歳児期77.6%、「自分の親」に関しては妊娠期34.5%、0歳児期40.7%、1歳児期31.1%、「自分の友人・知人」は妊娠期22.0%、0歳児期26.1%、1歳児期26.1%であり、妊娠期から0歳児期にかけて一時増加し、1歳児期に減少もしくは維持される傾向がみられた。同様な傾向は他のサポート対象についてもみられ、例えば「子育てサークルの仲間」（妊娠期4.3%、0歳児期21.7%、1歳児期9.9%）などに顕著であった。この結果から、子育てに初めて取り組む妻は0歳児期のときに一時的に複数のサポートへの援助希求を高めるが、子どもが1歳の頃には援助を求めなくなっていく様子が見られる。

一方、「保育士・幼稚園教諭」への相談頻度は1歳児期にかけて徐々に増加する傾向がみられ、相談を「いつもしている」人は妊娠期0.9%、0歳児期4.3%、1歳児期7.8%となっていた。この結果は、0歳児期から1歳児期にかけて子どもを託児施設や保育サービスに定期的に預ける親が増加したことを反映していると思われるが（「現在、託児施設や保育サービスなどに定期的に〇〇ちゃんを預けているか」で「はい」と答えた割合：0歳児期13.0%、1歳児期32.0%）、妻は子どもが低年齢の頃から徐々に、幼児期になった時点での有効なサポート源への相談を増やしていく様子が見られ興味深い。

夫に関しては、子どもが1歳児期に相談を「いつもしている」割合が圧倒的に高いのは「配偶者」68.3%であり、次に多かった「配偶者の親」4.3%、「自分の親」3.7%、「自分の友人・知人」

図6-1 子育てについて相談したり話し合ったりしたことがある人（1歳児期妻）

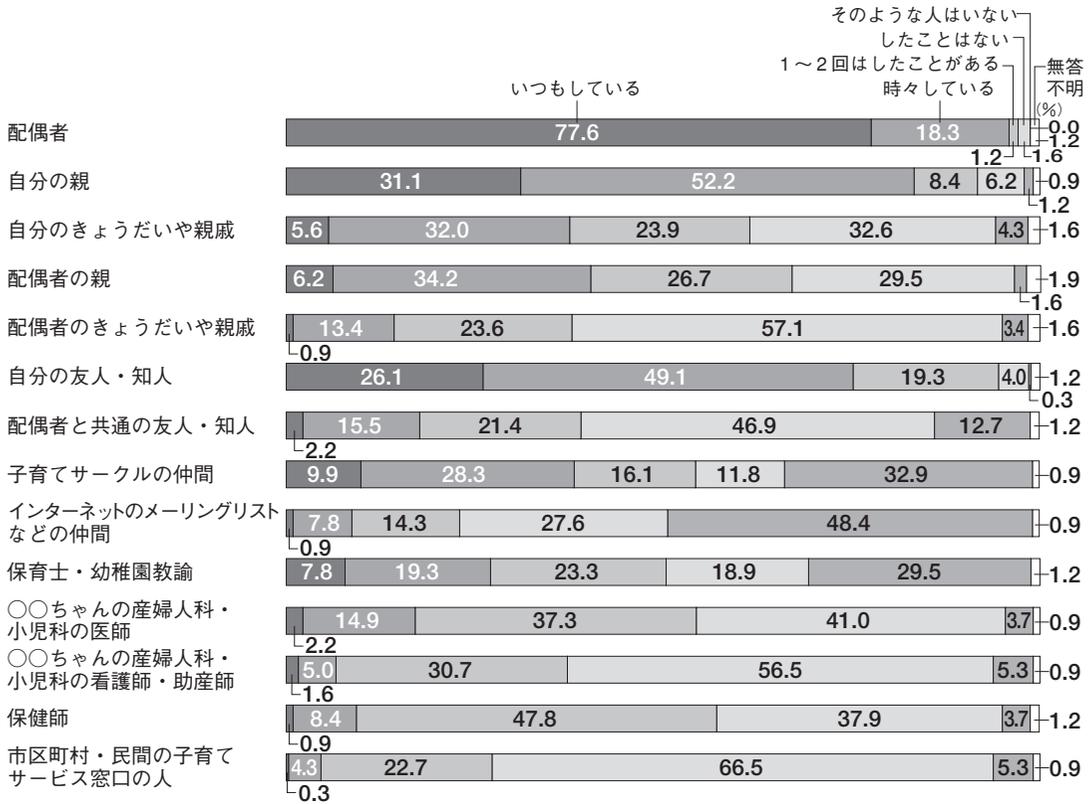
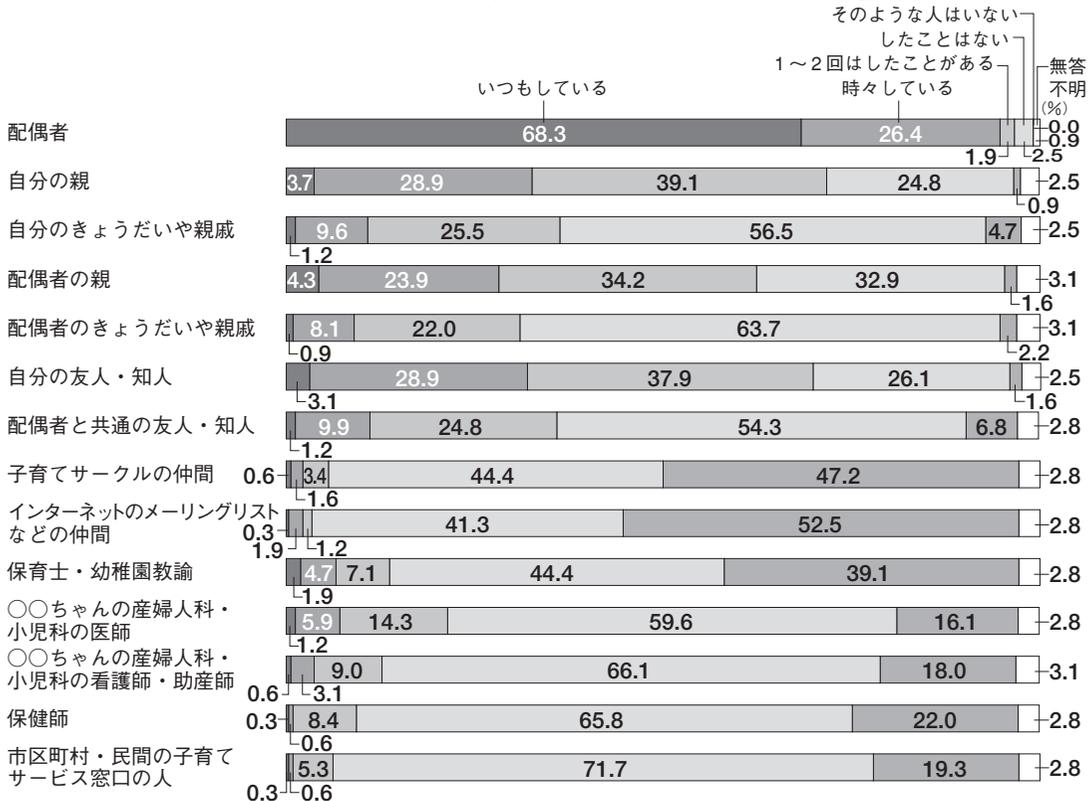


図6-2 子育てについて相談したり話し合ったりしたことがある人（1歳児期夫）



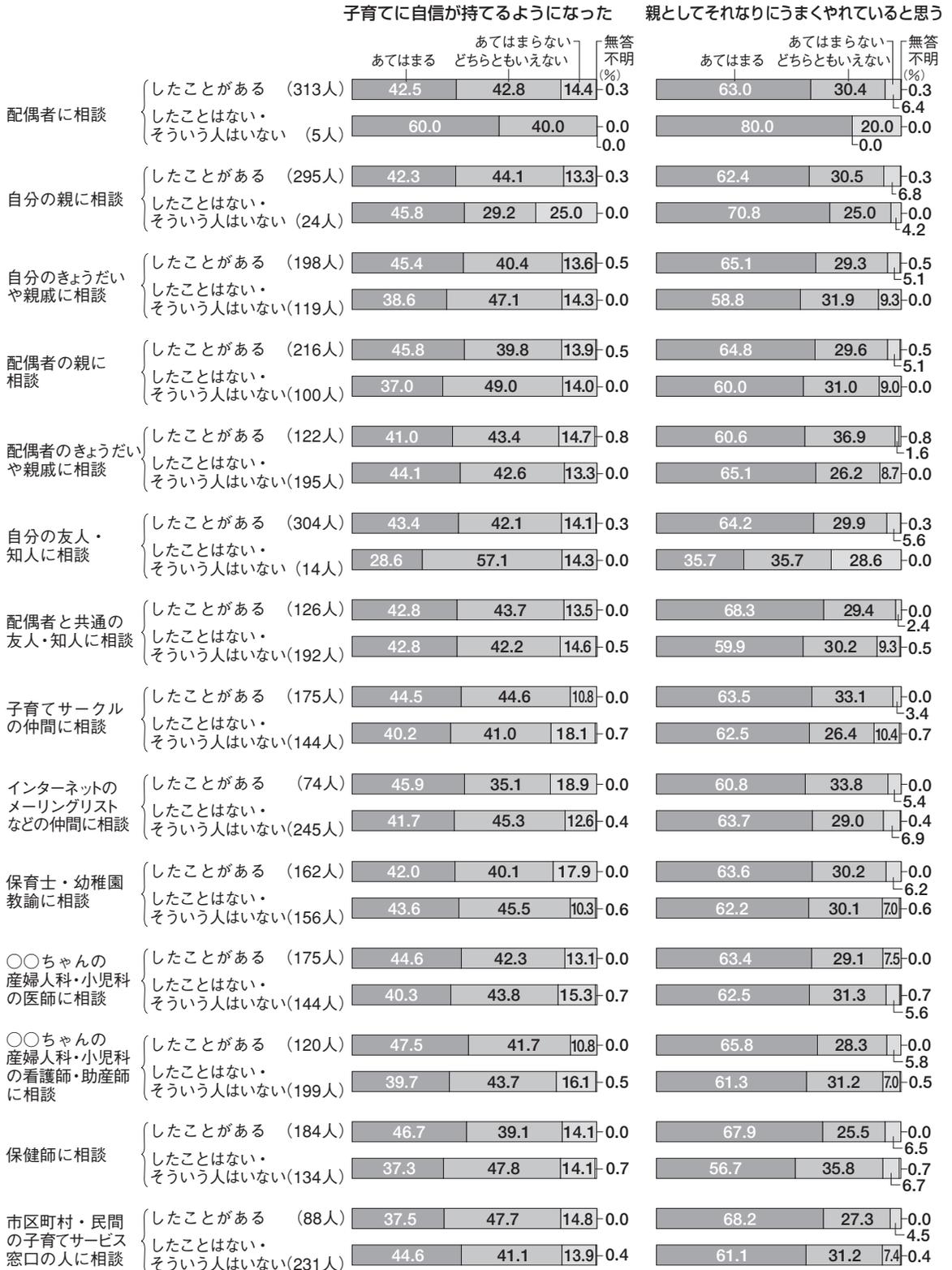
3.1%とはかなり開きがあった（図6-2）。妊娠期からすべての調査に参加している322人の相談頻度の推移では、「配偶者」に相談を「いつもしている」人は妊娠期で77.6%、0歳児期では77.6%、1歳児期では68.3%と減少傾向にあった。しかし、「配偶者の親」（妊娠期3.7%、0歳児期5.6%、1歳児期4.3%）や「自分の親」（妊娠期5.0%、0歳児期4.7%、1歳児期3.7%）、「自分の友人・知人」（妊娠期4.0%、0歳児期2.8%、1歳児期3.1%）への相談は、絶対数は少ないもののほぼ横ばいの状況が続いており、妊娠期から育児期を通じて、夫にとっての子育てサポート源は配偶者や親、自分の友人・知人に特化されているようである。

妻の相談相手の有無と子育て意識

図6-3には、1歳児期の妻の相談相手の有無と子育て意識との関係をまとめている。今回は、子育て意識として「子育てに自信が持てるようになった」と「親としてそれなりにうまくやれていると思う」の2つの設問を尋ね、両者ともに「あてはまる」～「あてはまらない」までの5件法で回答を依頼した。ここでは、「あてはまる」と「ややあてはまる」と答えた場合をあてはまると回答した人、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」と答えた場合をあてはまらないと回答した人としてまとめ、「どちらともいえない」の回答者を合わせて3つのグループに分けている。

相談相手ごとに、子育てに関する相談を1回でもしたことがある群と1回もない群（そういう相談相手がない人も含む）に分けて子育て意識の得点を比較したところ、顕著な差がみられたのは「自分の友人・知人」と「配偶者と共通の友人・知人」への相談の有無に関する結果であった。「自分の友人・知人」に相談したことがある群のほうがしたことがない群に比べて、「子育てに自信が持てるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある43.4%、したことはない28.6%）、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人も多かった（したことがある64.2%、したことはない35.7%）。ただし、相談したことがある群が304人であるのに対して相談したことがない群は14人とかなり少なく、結果の解釈には注意が必要である。また、「配偶者と共通の友人・知人」については、相談したことがある群のほうがない群に比べて「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かった（したことがある68.3%、したことはない59.9%）。さらに、「保健師」に相談したことがある群のほうがない群に比べて「子育てに自信が持てるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある46.7%、したことはない37.3%）、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人も多かった（したことがある67.9%、したことはない56.7%）。以上の結果から、子どもが1歳児になっても子育てについて相談できる友人がいる人のほうが、いない人に比べて子育て意識が良好であることがうかがえる。また、専門家である保健師の存在も、妻が子育てや親としての自信を持っていられるのに重要であるといえよう。

図6-3 相談相手の有無による子育て意識の違い（1歳児期妻）

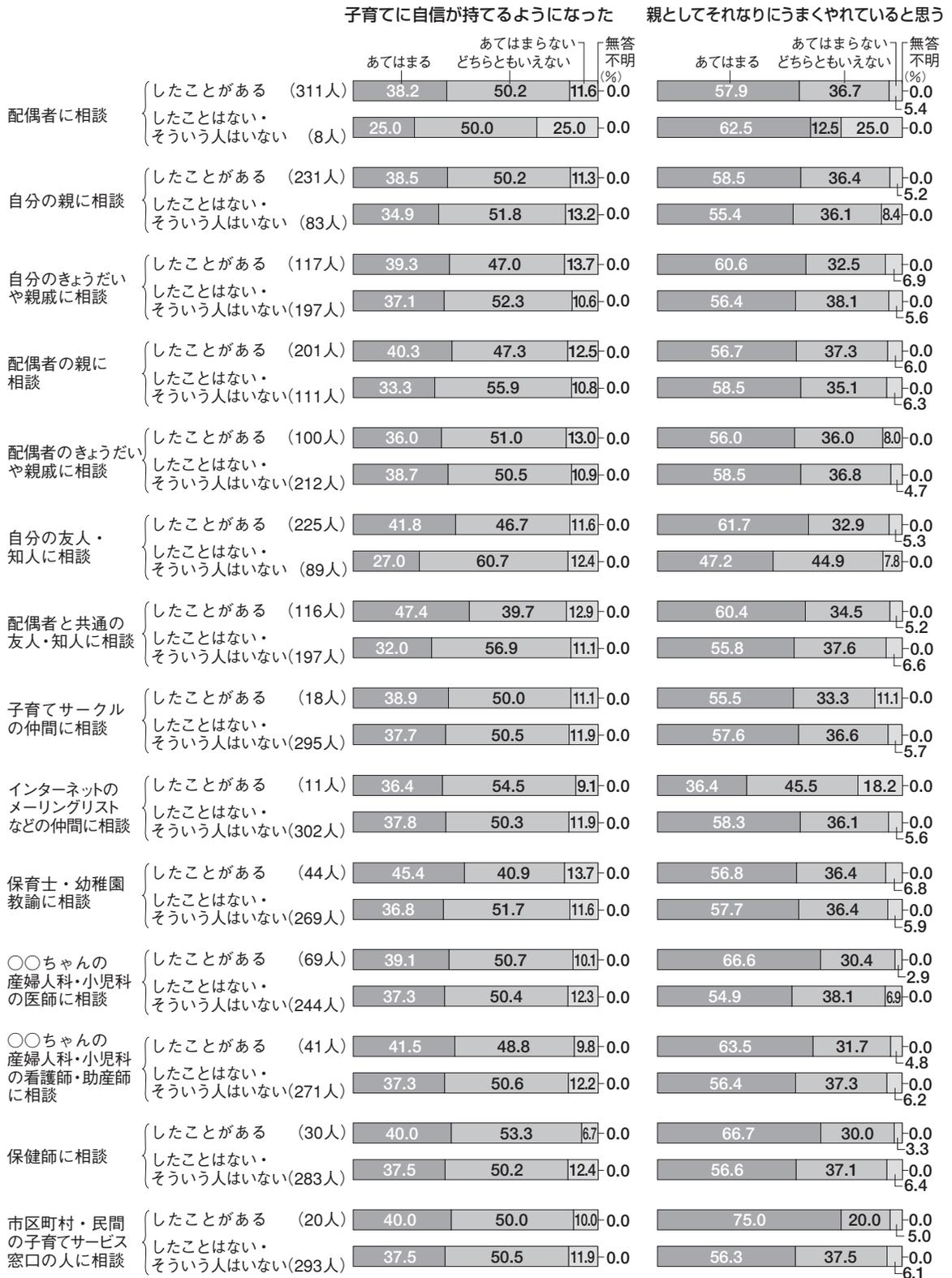


● 夫の相談相手の有無と子育て意識

1歳児期の夫に関しても、妻の場合と同様に、各相談相手への子育てに関する相談を1回でもしたことがある群とない群（そういう相談相手がいない人も含む）に分け、子育て意識の得点を比較した。図6-4に示した結果をみてわかるように、顕著に差がみられたのは「自分の友人・知人」と「配偶者と共通の友人・知人」への相談の有無に関する結果であり、妻と同様であった。「自分の友人・知人」に相談したことがある群のほうがない群に比べて、「子育てに自信が持てるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある41.8%、したことはない27.0%）、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人も多かった（したことがある61.7%、したことはない47.2%）。また、「配偶者と共通の友人・知人」については、相談したことがある群のほうがない群に比べて、「子育てに自信が持てるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある47.4%、したことはない32.0%）、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かった（したことがある60.4%、したことはない55.8%）。

この他には、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師」に相談したことがある群のほうがない群に比べて、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かった（したことがある66.6%、したことはない54.9%）。さらに、相談した人数は少ないものの、「保健師」（30人）や「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」（20人）に相談したことがある群のほうがない群に比べて「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かった（「保健師」したことがある66.7%、したことはない56.6%、「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」したことがある75.0%、したことはない56.3%）。このように、専門家に相談する夫のほうが子育て意識が肯定的である傾向は妊娠期と0歳児期にもみられており、子どもが1歳児になっても、夫として子どもの診療や検診に付き添い積極的に子育てに参加することが、子育てに重要な知識を得ることにつながり、子育ての自信を深めていくと推測される。

図6-4 相談相手の有無による子育て意識の違い（1歳児期夫）



● 子育てサポートネットワークの分布

図6-5～図6-10は、妻と夫それぞれの子育てに関する相談相手のネットワークが妊娠期から育児期にかけてどのように変化していくかを示したものである。変化を見やすくするために、今回は14種類の相談相手に対人関係における親密さのレベルから4つのグループに分けることにした。第1グループは、極めて親密な存在であり、子育てのパートナーである「配偶者（夫もしくは妻と表記）」単体で構成した。第2グループは「自分の親」「自分のきょうだいや親戚」「配偶者の親」「配偶者のきょうだいや親戚」の「親族」でまとめ、第3グループは「自分の友人・知人」「配偶者と共通の友人・知人」「子育てサークルの仲間」「インターネットのメーリングリストなどの仲間」の「友人・知人」でまとめることにした。最後の第4グループは、「保育士・幼稚園教諭」「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師」「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」「保健師」「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」の「専門家」である。これらの4つのグループについて、妻と夫それぞれが各グループを構成する相談相手の誰かに1回でも相談していれば、そのグループを子育てネットワークの一部に持っていることにした。例えば、「夫+親族」というネットワークの場合は、夫以外に、「自分の親」「自分のきょうだいや親戚」「配偶者の親」「配偶者のきょうだいや親戚」の4対象の誰か1人に少なくとも1回は相談していることが条件である。

妻の子育てサポートネットワークを示した図6-5～図6-7をみると、妊娠期、0歳児期、1歳児期を通じて「夫+親族+友人・知人+専門家」型ネットワークが8割以上（妊娠期81.1%、0歳児期87.3%、1歳児期80.7%）を占めており、「夫+親族+友人・知人」型ネットワークがそれに続いているのがわかる（妊娠期15.2%、0歳児期9.3%、1歳児期12.4%）。ネットワークの規模が配偶者を含めて2グループ以下（夫のみ、夫+親族、夫+友人・知人、夫+専門家の合計）であった割合はとても小さく（妊娠期1.2%、0歳児期0.0%、1歳児期0.9%）、ほとんどの妻が3つ以上のネットワークを確保していた。

一方、夫の子育てサポートネットワークでは（図6-8～図6-10）、妊娠期、0歳児期、1歳児期にもっとも多いのが「妻+親族+友人・知人」型ネットワークであり、「妻+親族+友人・知人+専門家」型ネットワークがそれに続いていた（「妻+親族+友人・知人」妊娠期47.5%、0歳児期45.3%、1歳児期40.7%、「妻+親族+友人・知人+専門家」妊娠期29.2%、0歳児期32.3%、1歳児期26.4%）。また、ネットワークの規模が配偶者を含めて2グループ以下（妻のみ、妻+親族、妻+友人・知人、妻+専門家の合計）の人は子どもの加齢に伴い増加する傾向にあり、妊娠期では15.2%、0歳児期では16.7%、1歳児期では22.6%となっていた。

以上の結果から、妊娠期から育児期を通じて妻の9割強と夫の7割程度が最大規模もしくは友人・知人までも含めた大きなネットワークを維持し続けている一方で、夫のなかにはネットワークを縮小させていく人が徐々に増えていくことがうかがわれた。図6-8～図6-10の夫の結果をみると、子どもの加齢とともに大きく減少するのは「妻+親族+友人・知人」型ネットワークであり、次第に増加していくのが「妻」型と「妻+親族」型であるといえるだろう。このことから、特に夫に関しては、子どもの加齢とともに友人・知人まで広がっていたネットワークが親族までのものへと縮小されていく傾向にあると考えられそうである。

図6-11には、妻と夫それぞれについて妊娠期、0歳児期、1歳児期の各時点のサポートネッ

図6-5 子育てサポートネットワークの分布
(妊娠期妻)

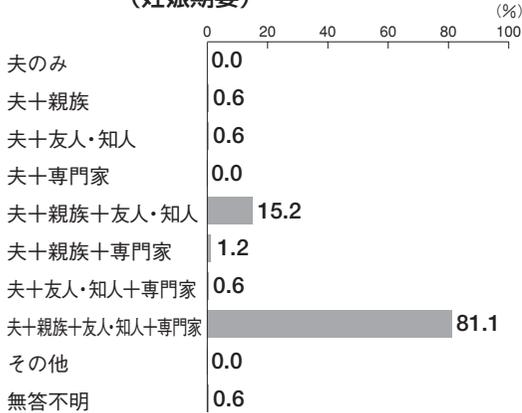
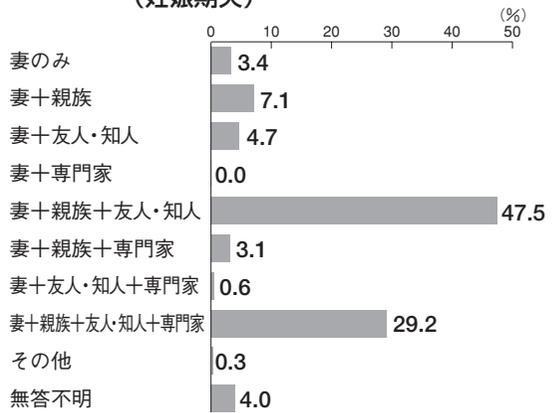
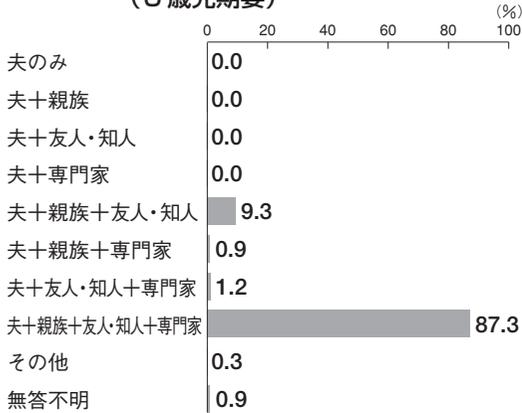


図6-8 子育てサポートネットワークの分布
(妊娠期夫)



注)「その他」は、「友人・知人のみ」のケースだった。

図6-6 子育てサポートネットワークの分布
(0歳児期妻)



注)「その他」は、「親族+友人・知人+専門家」のケースだった。

図6-9 子育てサポートネットワークの分布
(0歳児期夫)

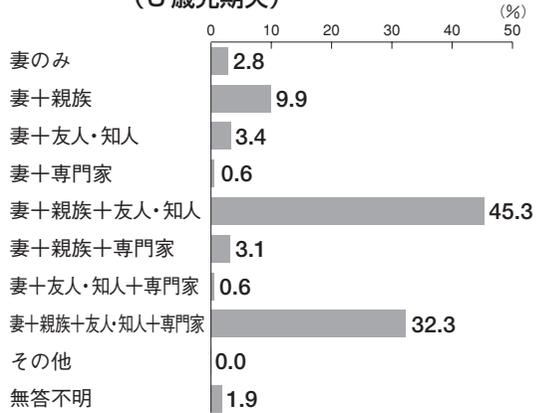
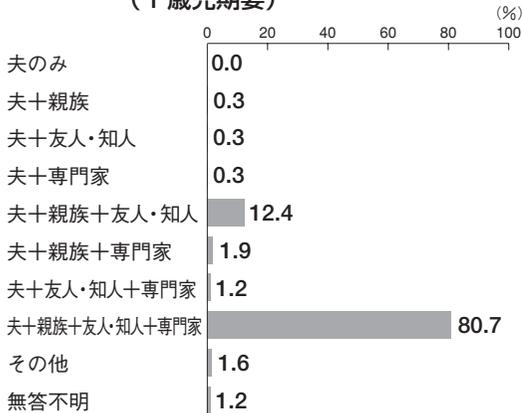
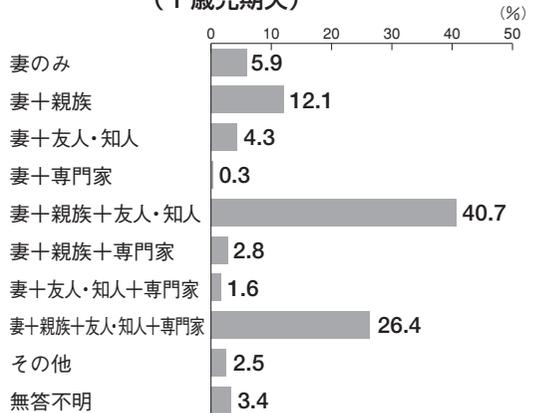


図6-7 子育てサポートネットワークの分布
(1歳児期妻)



注)「その他」の内訳は、「親族+友人・知人+専門家」が3ケース、「親族のみ」が1ケース、「友人・知人+専門家」が1ケースだった。

図6-10 子育てサポートネットワークの分布
(1歳児期夫)



注)「その他」の内訳は、「親族のみ」が3ケース、「誰もいない」が5ケースだった。

トワークに友人・知人が（配偶者とともに）ずっと含まれている人（友人・知人サポート継続群）と、どこかの時点で友人・知人が含まれていない人（友人・知人サポート単発／なし群）の割合を示している。この結果をみても、妻の9割強が友人・知人を含むネットワークを維持し続けている一方で、夫では友人・知人サポートがない時期のある人が3割強存在することがわかる。先ほどの結果で示されたように（図6-4）、友人・知人からのサポートが夫の子育て意識を肯定的に保つのに重要である。そのため、友人・知人のサポートが継続している群と友人・知人のサポートが単発もしくはない群との間で子育て意識の得点がどのように異なるのかを比較してみた。図6-12～図6-15は、1歳児期の子育て意識として尋ねた「子どもを育てることに充実感を味わっている」「子育てに自信が持てるようになった」「子育てが楽しいと心から思う」「親としてそれなりにうまくやれていると思う」の4つの設問の回答頻度を両群ごとに集計したものである。ここでも「あてはまる」と「ややあてはまる」と答えた場合をあてはまると回答した人、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」と答えた場合をあてはまらないと回答した人としてまとめ、「どちらともいえない」の回答者を合わせて3つのグループに分けている。この結果をみると、どの子育て意識の設問についても、友人・知人サポート継続群のほうがあてはまると回答した人が多いことがわかるだろう。特に、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」の両群間の差は大きく（継続群64.5%、単発／なし群48.0%）、友人・知人をサポート源として維持し続けている夫ほど親としての自信があることがうかがえる。

図6-11 妊娠期から1歳児期にかけての友人・知人ネットワークの変化

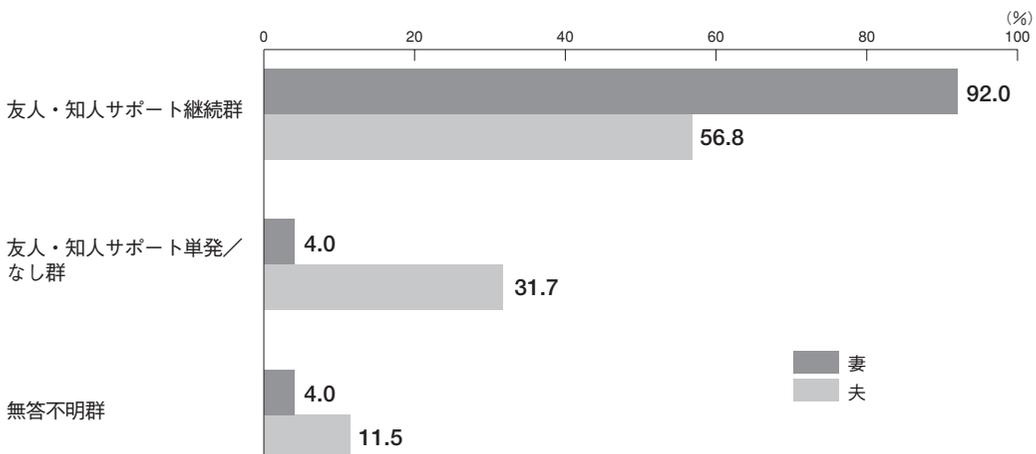


図6-12 子どもを育てることに充実感を味わっている（1歳児期夫）

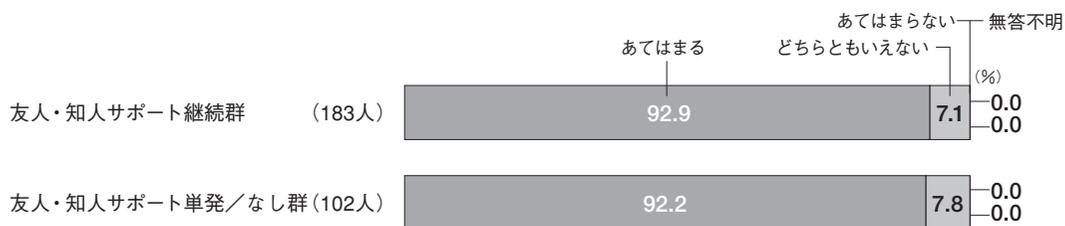


図6-13 子育てに自信が持てるようになった（1歳児期夫）

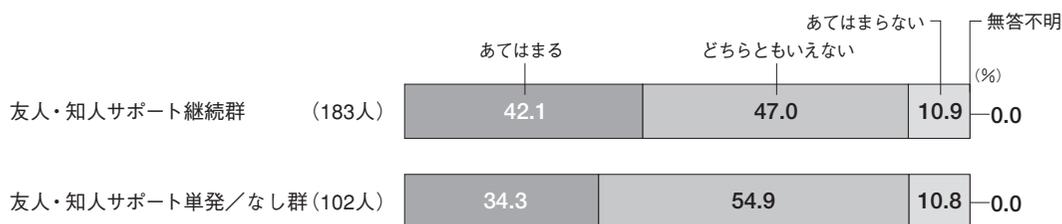


図6-14 子育てが楽しいと心から思う（1歳児期夫）

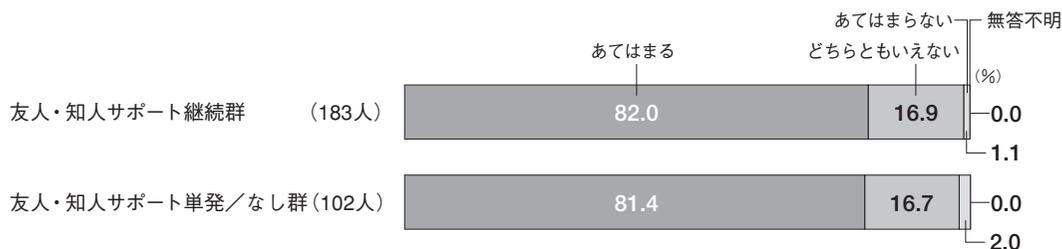
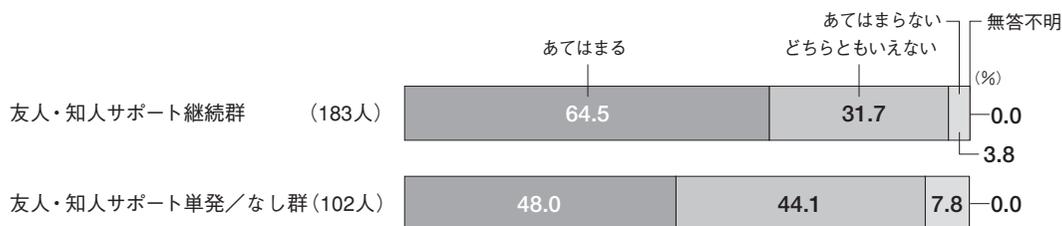


図6-15 親としてそれなりにうまくやれていると思う（1歳児期夫）



● 子どものピア・マネージメントの実態と夫の友人・知人ネットワークとの関係

本章の最後に、1歳児期の妻と夫による子どものピア・マネージメントの実態と親の友人・知人ネットワークとの関係について調べた結果を紹介したい。

子どものピア・マネージメント尺度として、調査記入時点から過去1か月の間に「〇〇ちゃんが家庭内外でお友だちと遊ぶための場を設定した」「〇〇ちゃんがお友だちをつくれるような場所（公園、児童館など）に連れて行った」「〇〇ちゃんが家庭外でお友だちと遊ぶための特別な活動をした」の3つの内容をどれぐらいしたかを尋ねた。その頻度は、1か月間で「ほとんど毎日した」「5～6回程度した」「3～4回程度した」「1～2回程度した」「まったくしていない」の5段階に分かれている。図6-16～図6-18は、各設問における妻と夫それぞれの回答結果を集計したものであり、どの設問についても妻のほうが夫に比べて頻度が多いことが見て取れる。また、妻と夫に共通する結果として、3つの設問の中では「〇〇ちゃんがお友だちをつくれるような場所（公園、児童館など）に連れて行った」経験のある人が多く（1回でもした人が妻では92.8%、夫では69.7%）、1歳児期であっても親は子どもの友だち関係を広げようと外に連れ出す意識が強いことがわかる。

それでは、親が子どものピア・マネージメントを実施する状況にはどのような場合が考えられるであろうか。専業主婦の場合には、子どもを連れて日中散歩するようなときに公園に出かけたなり、子育てをする妻同士の集まりなどで子どもが同年齢の友だちと会ったりすることは想像できる。しかし、夫の場合には、そうした習慣的な出来事よりも同じように子育てをしている友人・知人が存在し、そのネットワークに支えられて実施する機会が多いことが予想される。

図6-19～図6-21は、先ほどの夫による友人・知人サポート継続群と友人・知人サポート単発/なし群ごとに、子どものピア・マネージメントの頻度を比較したものである。ピア・マネージメントを1か月に1回でもした経験者と1回もしたことがない未経験者に分けて集計したところ、どの設問に関しても友人・知人サポート継続群のほうが経験者が多く、特に「〇〇ちゃんがお友だちをつくれるような場所（公園、児童館など）に連れて行った」経験の差は比較的大きかった。このことから、夫自身に子育てを共有する友人・知人が存在し、その相手からサポートを受け続けていることが、子どもの友だち関係形成の機会を増やしていくことにつながると考えられるだろう。こうした差は子どもが成長するに伴い広がっていくことが予想され、次年度に予定している調査でも継続して尋ね、子どものピア・マネージメントが子どもの実際の友だち関係にどのように関係するかも合わせて報告していきたい。

図6-16 ○○ちゃんが家庭内外でお友だちと遊ぶための場を設定した（1歳児期妻・夫）

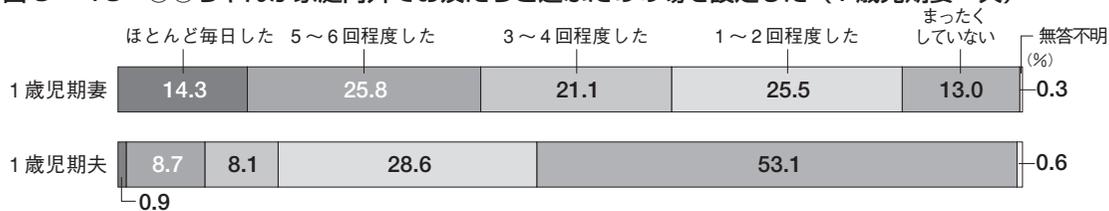


図6-17 ○○ちゃんがお友だちをつくれるような場所（公園、児童館など）に連れて行った（1歳児期妻・夫）

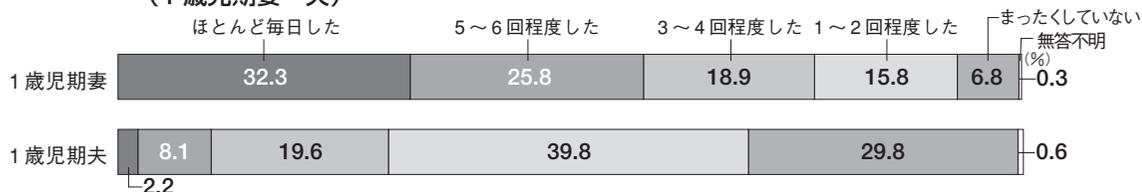


図6-18 ○○ちゃんが家庭外でお友だちと遊ぶための特別な活動をした（1歳児期妻・夫）



図6-19 ○○ちゃんが家庭内外でお友だちと遊ぶための場を設定した（1歳児期夫）

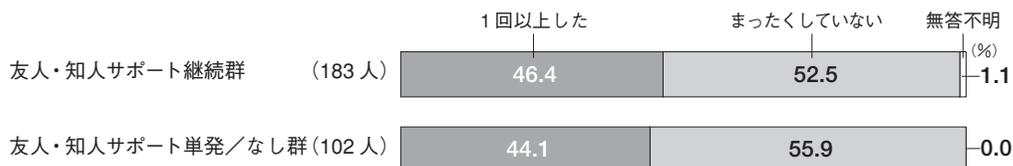


図6-20 ○○ちゃんがお友だちをつくれるような場所（公園、児童館など）に連れて行った（1歳児期夫）

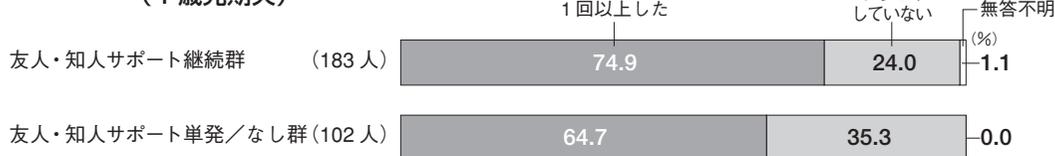


図6-21 ○○ちゃんが家庭外でお友だちと遊ぶための特別な活動をした（1歳児期夫）

